

第20回 腹証奇覧・奇覧翼を読み終わ って

～2年間を振り返る～

診 方 § 四 診

峯 尚志

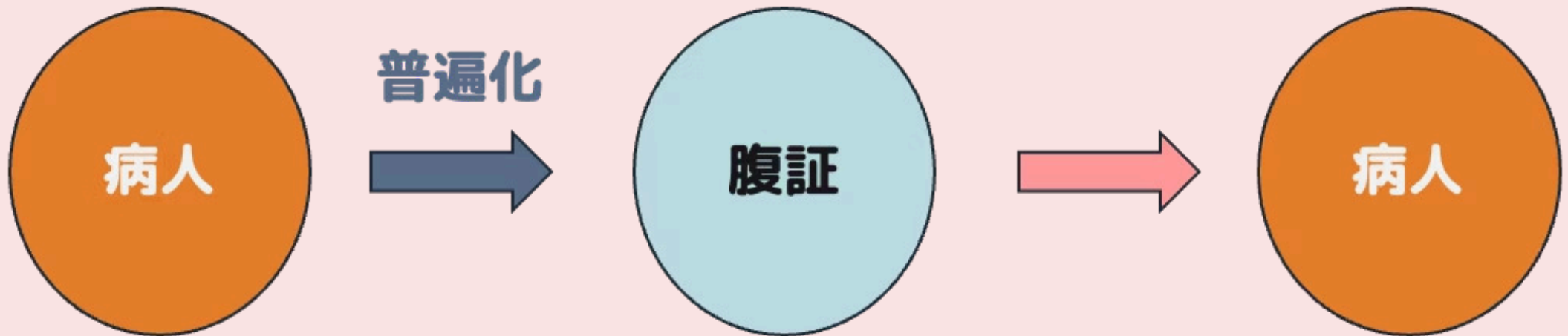
文礼と叔虎の年譜

- 1775 文礼、鶴泰栄に弟子入り
- 1786 弟子入りから11年、文礼、「腹候弁略」を著す
- 1793 7年後、和久田叔虎と初対面
- 1795 その2年後、文礼、京都に定住
- 1797 2年後、文礼、半身不随となる
- 1798 翌年、叔虎、江戸に移住す
- 1800 2年後、文礼、「腹証奇覧四巻」を著す
- 1801 翌年、叔虎、江戸の本屋で腹証奇覧を見る
- 1802 翌年、叔虎、「読腹証奇覧」を著す
- 1803 翌年、叔虎、浪速の文礼を訪ね10年ぶりに再会す
- 1805 再会から2年後、文礼死去
- 1807 2年後、叔虎京都に移住
- 1809 2年後、叔虎、「腹証奇覧翼初編2冊」を著す
- 1833 24年後、二篇二冊を出版（門人豊前中津、原田成憲子）
- 1853 20年後、三、四篇四冊を出版（門人豊前中津、原田養賢）

※1775～1805で30年

日本漢方ここにあり

処方に適応となる普遍的な概念である腹証を
手足口もある具体的な病人さんの姿の中に描きあらわしたもの



腹証奇覧、奇覧翼を学ぶ目的

- 腹証奇覧、奇覧翼を題材として、稲葉文礼、和久田叔虎の腹証の捉え方を学びつつ、症例発表を通して、処方に向き合い、その処方を自分の腹まで落とし込めるように自分なりに研究理解し、「病の応は体表に現れる」という腹診の奥深さを学ぶこと

福田裕子先生による生薬解説（21生薬）

桂枝

麻黄

葛根

石膏

柴胡

芍薬

枳実

黄連

黄芩

山梔子

乾姜

甘草

附子

当帰

川芎

茯苓

大黄

芒硝

水蛭

桃花

栝楼仁

2022年1月27日（第153回）

第一回文礼と叔虎の来歴



「温病条弁解説 下焦篇」

洛和会音羽リハビリテーション病院 山崎 武俊



「腹証奇覧を生んだ時代背景」

峯クリニック 峯尚志



「アウターマッスルとインナーマッスルについて」

村田均整院 村田 昭人



「呼吸を理解する ～腹証の理解は呼吸から～」

きの小児科医院 紀 優子



わしはガキのころおとうとお
かんに捨てられたんや
広い世の中にたった一
人、、、生きてきたんや

ダチのすすめで医者になることを決意

鶴泰栄先生に弟子入り

「お前は本は読まんでいい。腹診なら文字が読めずとも患者
さんにじかに触れて学ぶことができる」

叔虎のなげき

稲葉文礼出版の腹証奇覧を読み愕然とする

何故なんだ！

私が先生に習ったこと、

感覚、表現が失われている。

先生は私に患者さんたちのお腹を触らせてみて、

あんな風にもこんな風にも教えてくださった。

それなのに、この本にはそれが書かれていない！

どうしてなんだ！

私は、深い嘆きと悲しみを感しました。

今中政支先生からの疑問

高山宏世先生の赤本があるのになぜ今更腹証奇覧、奇覧翼を読む必要があるのか



2022年1月27日 第153回 北摂中医学研究会
～ 「腹証奇覧を読む」の講義後のディスカッションにて ～

第155回北摂中医学研究会（2020年3月24日）

第二回桂枝湯他

桂枝湯、桂枝加葛根湯、葛根湯、葛根黄連黄芩湯

桂枝加芍薬湯、桂枝加芍薬大黄湯、桂枝加芍薬生姜人参湯



「桂枝加大黄湯、桂枝加芍薬生姜人参新加湯の症例」

洛和会音リハビリテーション病院 山崎武俊



「新加湯と根芩連湯」

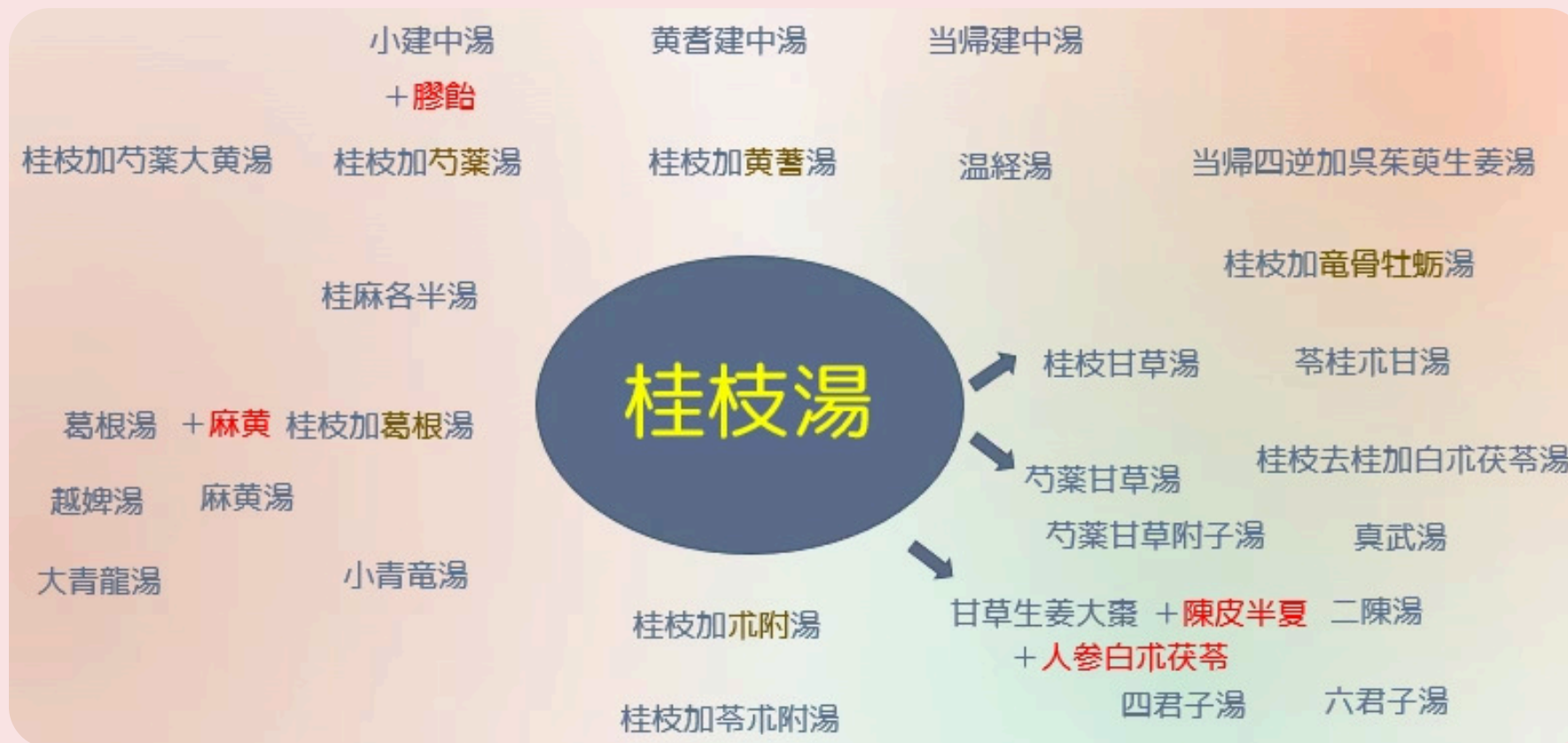
タケモトクリニック 竹本 喜典先生

桂枝湯は陰陽の調和をみごとに成し遂げている



桂枝湯は『だし』だ！

多くの処方が桂枝湯というだしをもとに作られている



4月28日(木)18:00~20:30 (第156回)

第3回 桂枝去芍薬湯他

桂枝去芍薬湯、桂枝枳実生姜湯、桂枝去芍薬加皂莢湯、桂枝芍薬加蜀漆竜骨牡蠣湯、桂枝甘草湯、
桂枝甘草竜骨牡蠣湯、桂枝加竜骨牡蠣湯、小青竜湯、麻黄湯、大青竜湯



「陰陽からみえた桂枝甘草竜骨牡蠣湯と桂枝加竜骨牡蠣湯の違い

泰山堂岡崎医院 岡崎弘泰



「糸の切れた風船の話し」

峯クリニック 峯尚志



「①後鼻漏による呼吸苦に難渋した症例の鼻汁増加には小青竜湯で良かったか？
②桂枝去芍薬加皂莢湯を用いた湯液治療と鍼治療が有用であった
びまん性汎細気管支炎の1症例（論文より）」

ふくおかクリニック 福岡正平

●桂枝加芍薬湯と○桂枝去芍薬湯

横方向
下方向

縦方向
上方向

消化器系

循環器系



桂枝加芍薬湯証では腹直筋が緊張して体幹を支えているのに対して桂枝去芍薬湯では腹直筋の緊張なくさらに腹力は虚している。腰椎下部の後弯も強くなり骨盤底筋の緊張も抜けて、臍上の動悸が上にまで突き上げてくる

5月26日(木) 18:00~20:30 (第157回)

第4回 小建中湯他

小建中湯、黄耆建中湯、当帰建中湯、大黄庶虫丸、大建中湯



「症例提示（小建中湯、黄耆建中湯、当帰建中湯）」

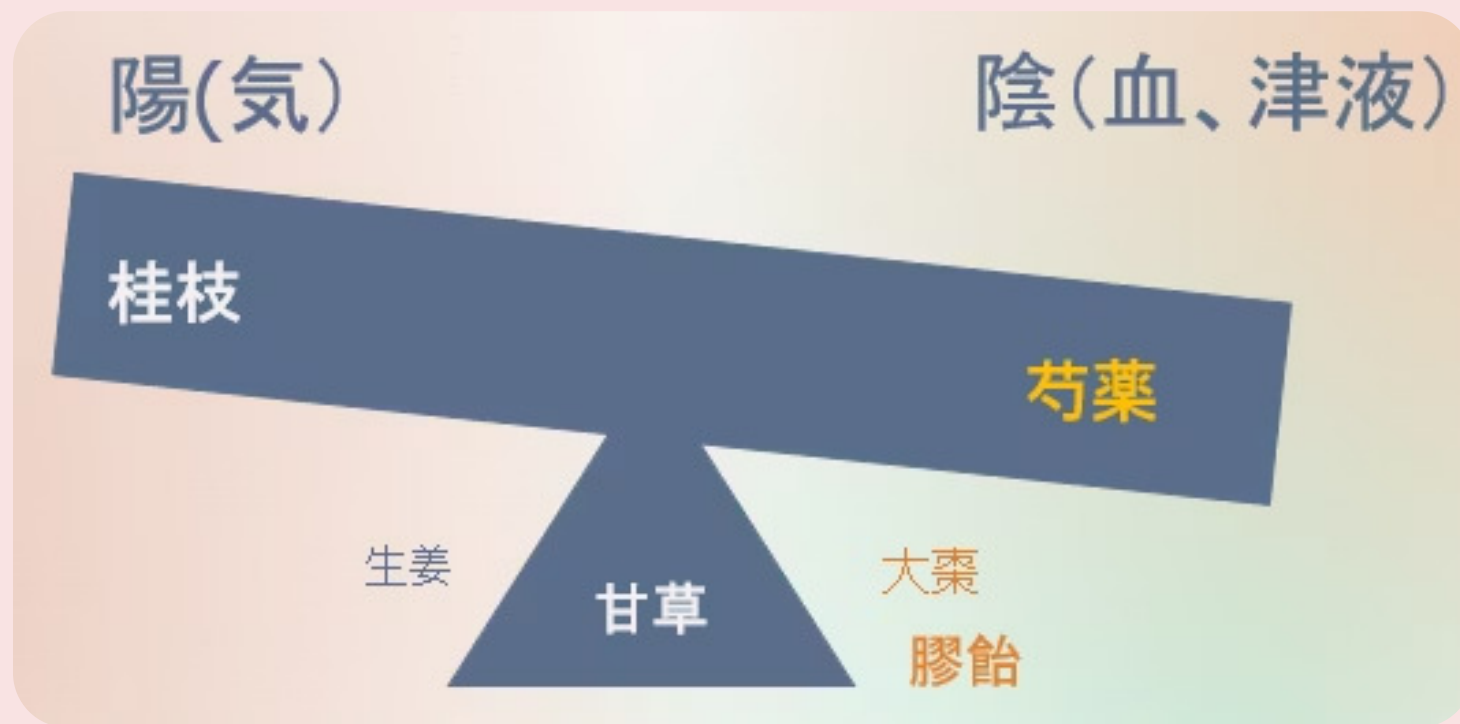
おおたこども・アレルギークリニック太田和美



「～小建中湯～ 腹の深いところの毒で大黄庶虫丸ができています」

阪神漢方研究所付属クリニック 福田裕子

小建中湯の構成



●叔虎の小建中湯図

図のごとく

腹一面に筋ばり引きつり

しかも太鼓の上を撫でるがごとし

二行通り二大竹を立てるがごとく

三指深く按すれば上下に引っ張るもの

弓弦を張るが如く

これを正按すれば底に実せず、

ただ中脘の辺より上、動悸つよく

圧按するに胸中までドキドキとおどり

さて四肢の肉ひすばり痩せて

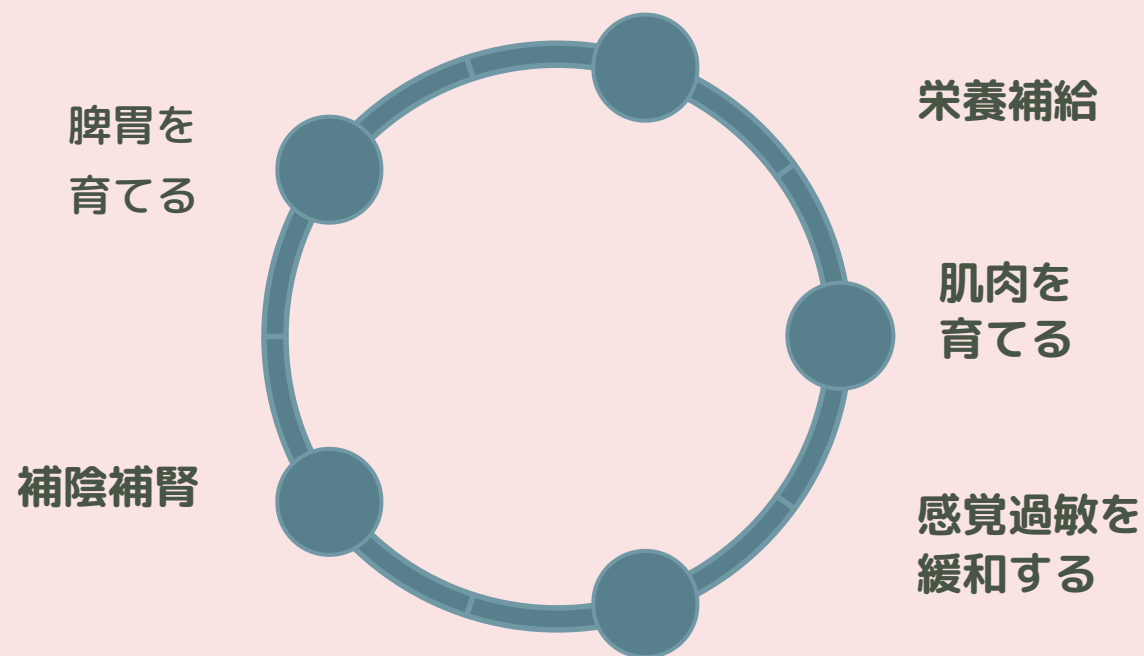
手足の心（うら）に熱を生じ、

脈浮大にして力なきものを

小建中湯の正証とす



脾胃を守るだけじゃない小建中湯の働き





触らないのに くすぐったい男の子

○文礼の小建中湯図

腹皮拘急して
縦横数縄を引っ張りたるが如く
これを按ずるにたゆまず
例えば弓弦を押すがごとし
世に所謂、癆瘵癰症
あるいは鬱証と号するもの
この証多し

医者文辞に眩ぜず、
腹証によって方を処するとき
百発百中失するというとなし

一般的な小建中湯証より、更に虚して消耗した患者さんを文礼はみ
ていた。



2022年6月23日(木) 18:00~20:30 (第158回)

第5回芍薬甘草湯、呉茱萸湯他

芍薬甘草湯、芍薬甘草附子湯、当帰四逆湯、当帰四逆加呉茱萸生姜湯、呉茱萸湯



- ①当帰四逆加呉茱萸生姜湯の症例
- ②呉茱萸湯の症例
- ③芍薬甘草湯が著効する透析患者の腹証
- ④芍薬甘草湯の薬理

阪神医療生協同組合第三診療所 澤井一智



「呉茱萸湯について」

タケモトクリニック 竹本 喜典



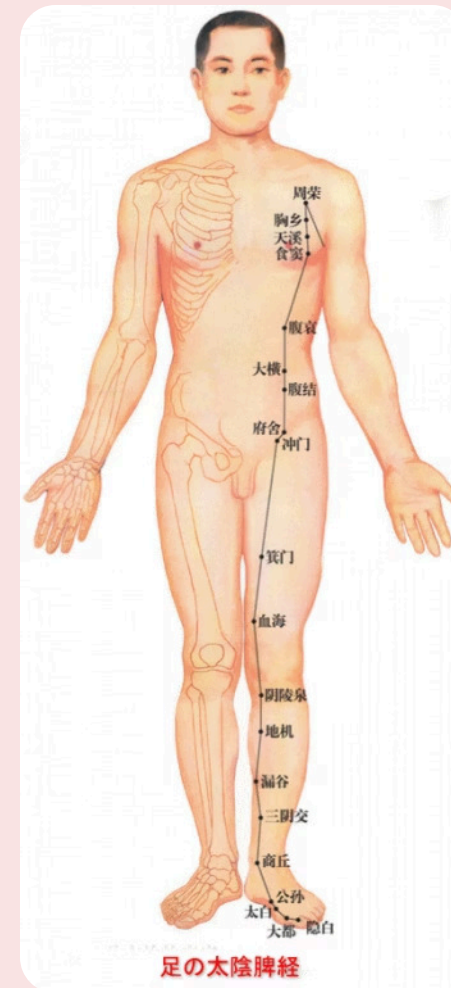
「当帰四逆加呉茱萸生姜湯の症例」

きの小児科医院 紀 優子

桂枝湯は陰陽の調和 芍薬甘草湯は陰を補い 急迫を治す



叔虎の図をよくみると
拘攣の場所は太陰脾系をあらわす
脾は肌肉を主る



2022年8月25日(木)18:00~20:30 (第160回)

第6回桂枝加黄耆湯

桂枝加黄耆湯、黄耆桂枝五物湯、黄耆桂枝苦酒湯、防己黄耆湯、防己茯苓湯、補中益気湯



「防己黄耆湯と補中益気湯」

キリン薬局京都店 橋本佳子



「黄耆桂枝五物湯・防己黄耆湯・補中益気湯」

大阪医科大学附属病院麻酔科 佐野博昭

虎さん気合の章

今回は文礼の解説なく、叔虎の解説のみ。

虎さん、黄耆剤についてはこだわりを持って解説している

乾燥した皮膚に黄耆

●桂枝加黄耆湯

図のごとく衝逆して

頭部より項背に及んで強急し（表証：桂枝湯証）

胸前缺盆の辺もまた凝結するものあり

水気、心胸より上、頭頂に集まり（上部）

肌膚潤沢なく滑淖ならず

甚だしきものは

皮膚甲錯枯燥し、腠理密ならず



水っぽい皮膚に黄耆

補気固表の黄耆と利水の防己の組み合わせ

防己黄耆湯

防己1両、黄耆1両1部、白朮7銭、甘草半両、生姜四片、大棗1枚

カエル腹を提唱した小倉重成の口訣

皮膚の機能を高める黄耆、皮下に水滞がある場合は停滞した水をさばく

蛙を仰向けにした時の腹のような
色白でぽっちゃりとした腹で
腹力軟
左右の腹筋の緊張を認めず
瘀血のほかには
特に腹証のないもの



第7回越婢湯他

桂姜棗草黄辛附湯、枳朮湯

越婢湯、越婢加朮湯、越婢加朮附湯、越婢加半夏湯

麻黄杏仁石膏甘草湯、麻黄杏仁薏苡仁甘草湯、文蛤湯

白虎湯、白虎加人參湯、白虎加桂枝湯、竹葉石膏湯、麦門冬湯



「越婢加朮湯と麻杏甘石湯の構成生薬と処方のおくみについて」

ハーブ薬局 樋口淳子



「桂姜棗草黄辛附湯」

どれみ耳鼻咽喉科 今中政支

越婢加朮湯 肺の宣発を助け、炎症性浮腫を取る



越婢湯

右図のごとく水気上部に集まり
喘咳気急、一身腫れ

脈浮、自汗出、或いは汗なく
その心胸の間を覆手圧按するに
皮膚を隔てて熱状を知ること

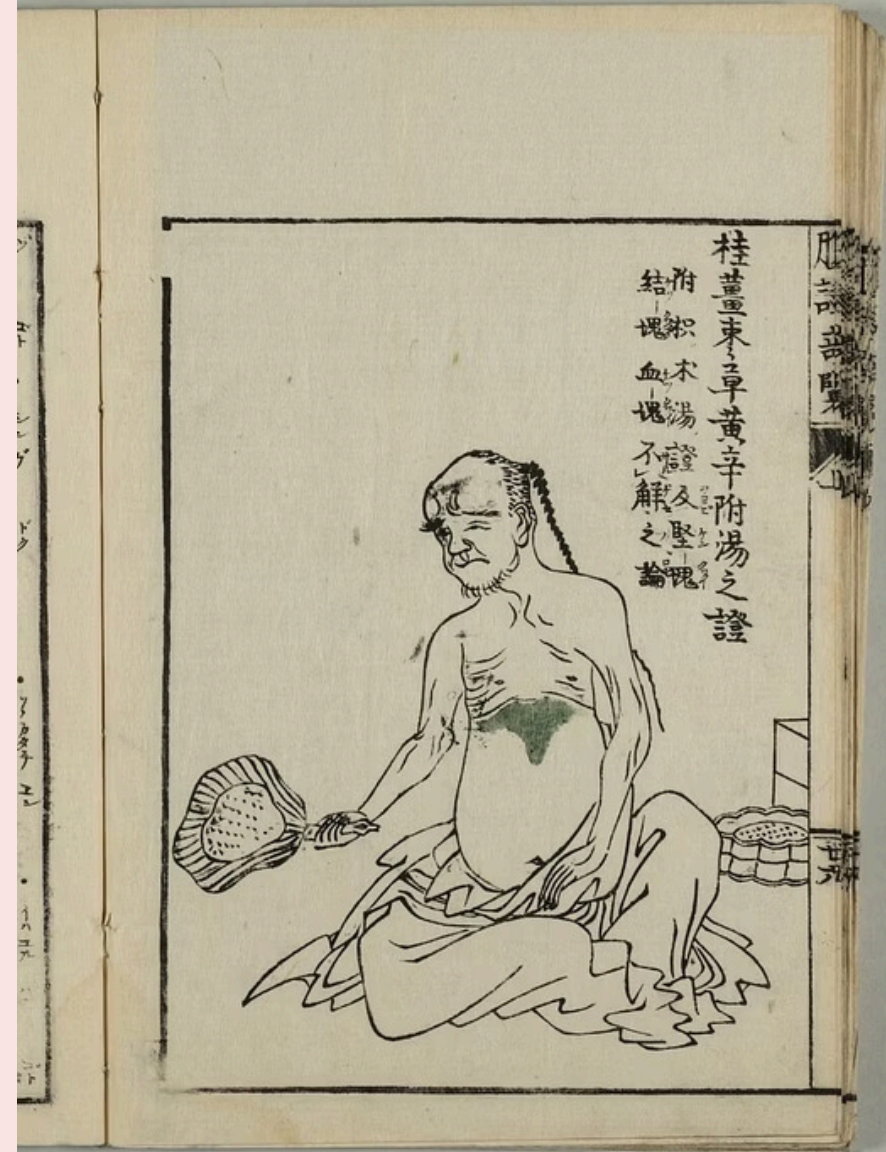
例えば

熱灰を袋に盛りその上より按ずるが如く
なるを伏熱の候として
越婢湯の正証とす



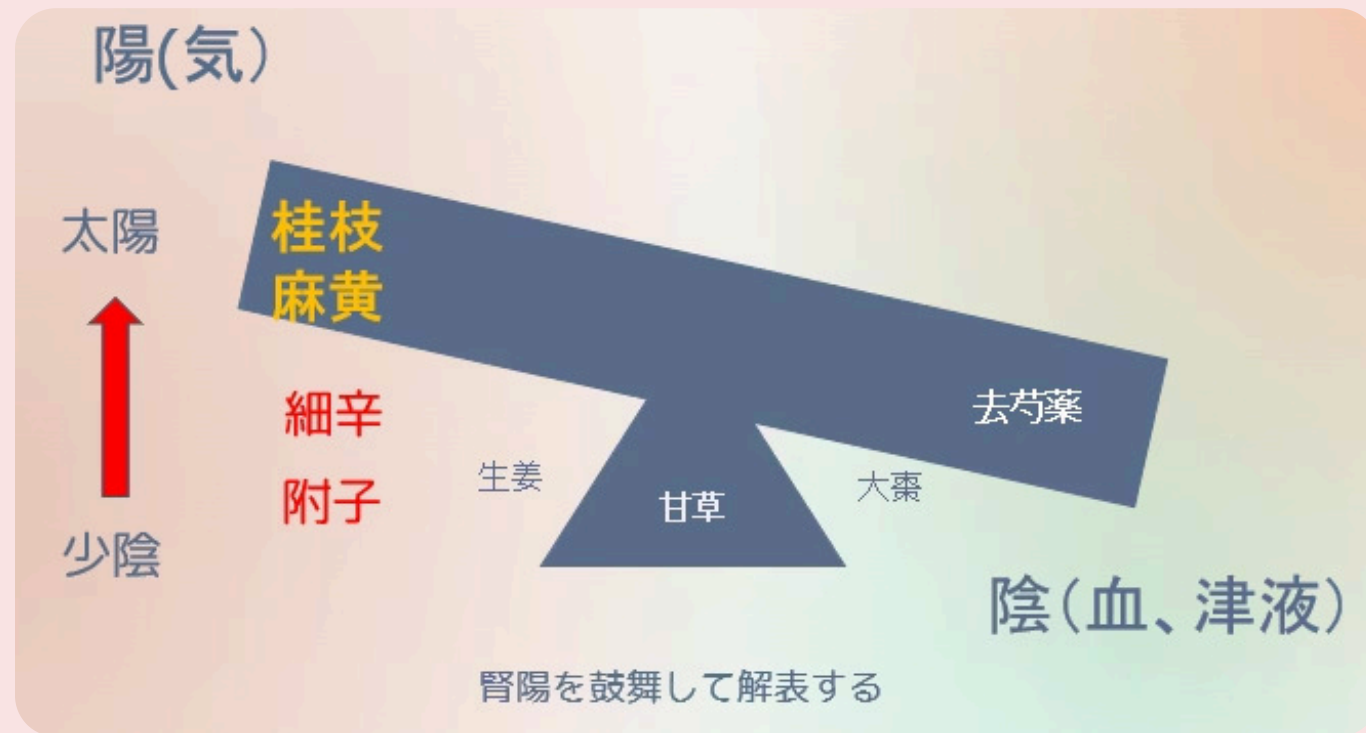
○桂姜棗草黄辛附湯

図のごとく心下に毒ありて、
その形、円（まどか）なり
所謂、盤のごとく、辺の旋杯の如きものこれなり
之れを按ずるに、堅くして大承気湯の堅塊に似たり
しかれども、
大承気湯の堅塊はその形長きを以てこれと別つ

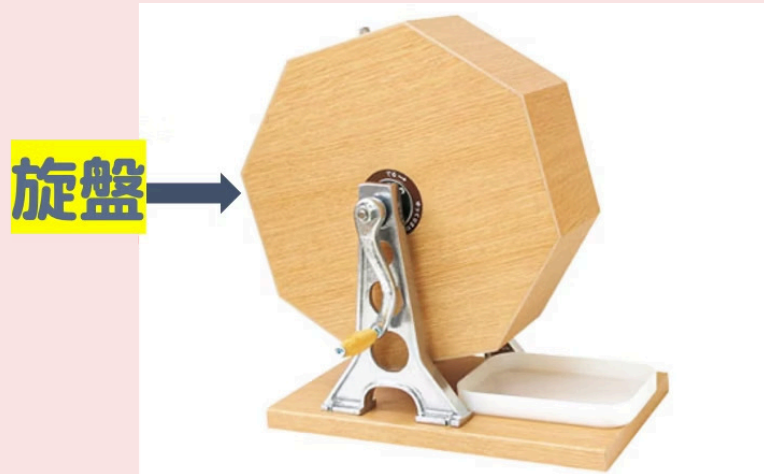


桂姜棗草黄辛附湯の処方構成

補陰は大棗のみ、あとはすべて補陽



桂姜棗草黄辛附湯は気分のガラポンだ



軸を（脾）を中心に
一気に回す

陰陽を調和させるのではなく一つのベクトルで一気に回す

2022年10月27日18：00～20：30（第162回）

第8回 小柴胡湯他

小柴胡湯、柴胡桂枝乾姜湯、柴胡去半夏加栝蒌湯、柴胡加桂枝湯、柴胡加竜骨牡蠣湯



「小柴胡湯加減法、柴胡桂枝湯、柴胡加竜骨牡蠣湯、柴胡桂枝乾姜湯」

ERIクリニック 戸城えりこ



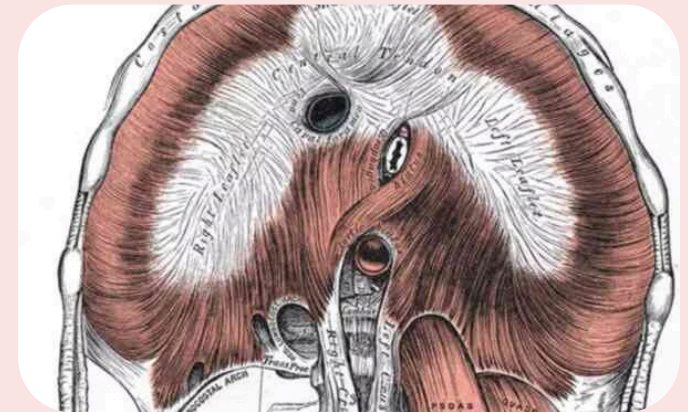
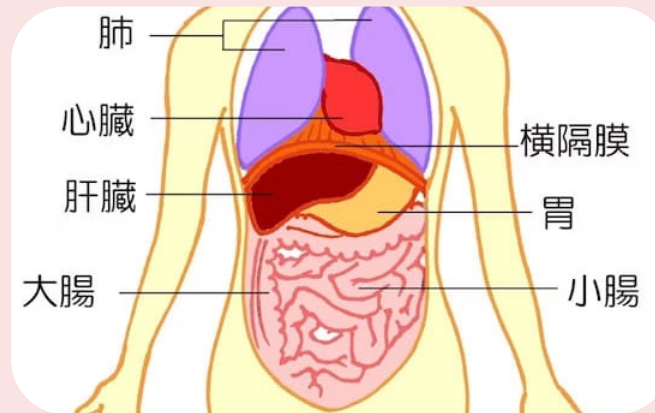
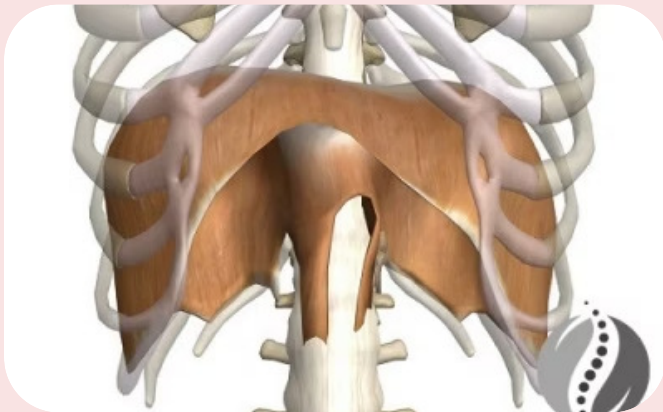
「循環器外来における柴胡剤の出番」

京都大学大学院医学研究科 金田和久

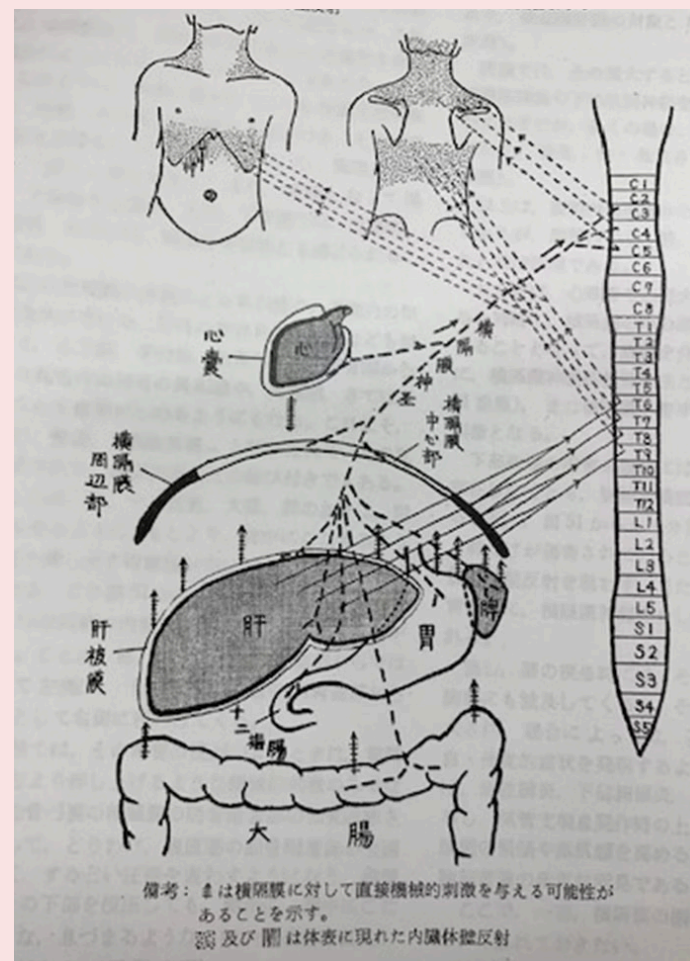
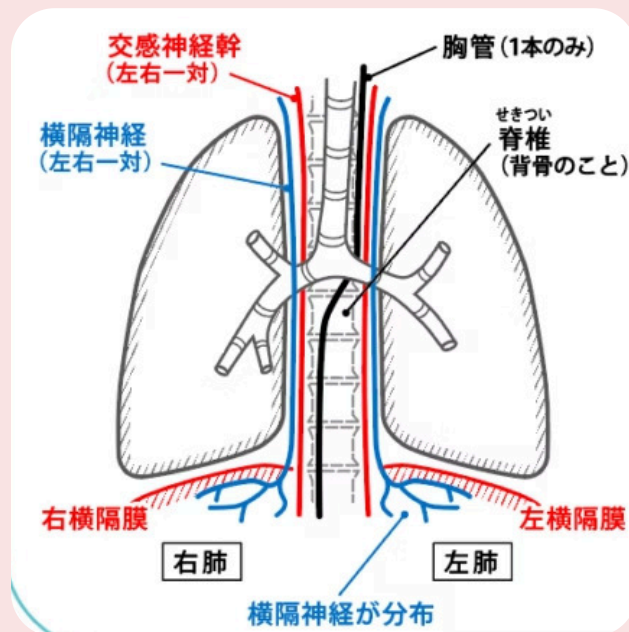
小柴胡湯の腹証といえは胸脇苦満

細野史郎の研究

— 胸脇苦満は横隔膜症候群である —



横隔膜を仲介として起こる 胸・腹腔内臓器よりの内蔵体癆反射



双方ともに胸脇苦満の診察法の記載あり



文礼の図は
腰をそり、腹をやや付きだして
脇腹の胆経にも緊張が及んで
いることが見て取れる
叔虎の図は、苦満が胸部にも
及んでいることを表現している
どちらも
よく描かれており
両方の腹診図を参考にしたい



2022年11月24日(木)18:00～20:30 (第163回)

第9回 大柴胡湯他

大柴胡湯、柴胡加芒硝湯、四逆散、柴胡飲子、黄連湯、旋覆花代赭石湯



「四逆散と大柴胡湯」

松本雄志



「大柴胡湯と黄連湯」

松村有美子



「子供でも大柴胡湯」

竹本 喜典



●大柴胡湯

心下急：胃のあたりがつまったように堅い

右図の如く、胸脇満して、

心下急（ひつば）り筋張りて、腹底に応じ

之れを按ずに力あり

あるいは固くして息にかかり

上腹は一体に締めまりて微満し

（筋肉質スポーツマンタイプ）

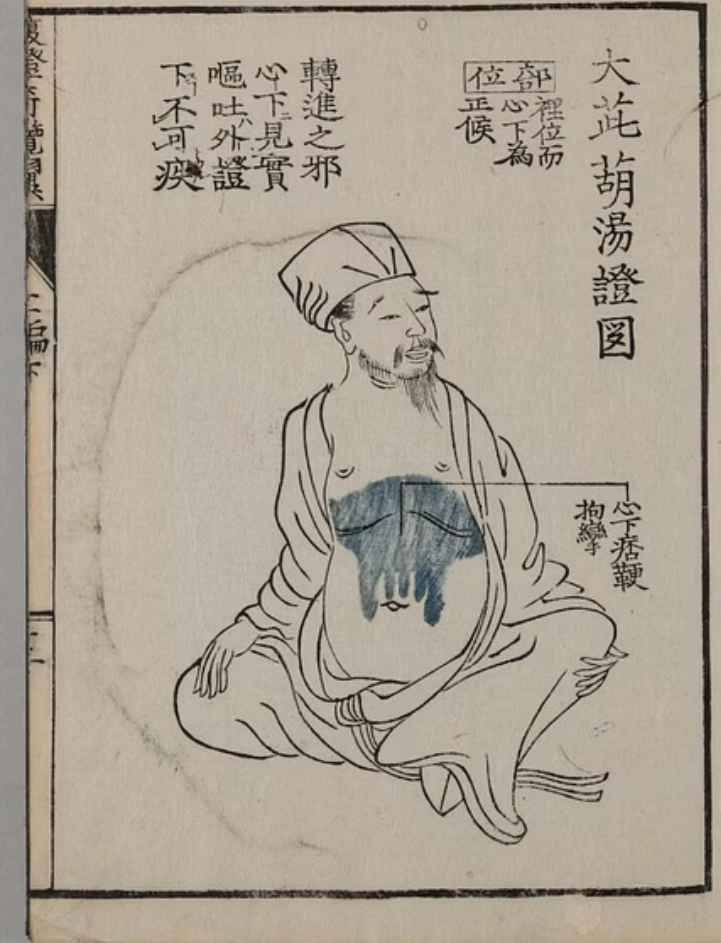
或いは腹痛す

（取り締めまりなく一面に痛み、

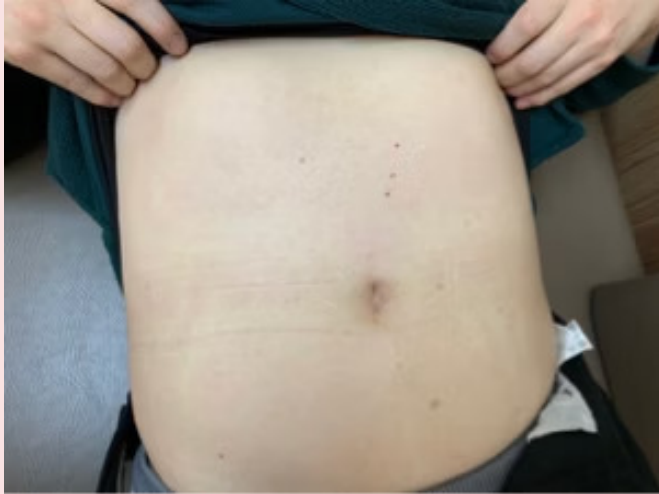
或いは、心下、或いは臍傍と一定せず

之れ、いわゆる満痛なり）

大柴胡湯の腹証なり



54才、女性、不整脈、大柴胡湯合半夏厚朴湯



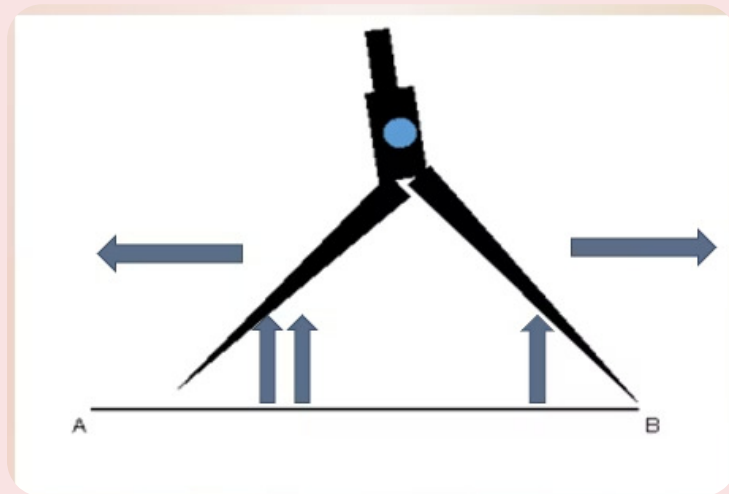
胸肋各広く、胸脇苦満あり、腹部は弾性硬い
堅いといっても皮下に脂肪を蓄えた弾力のある堅さ
顔の写真はないが、鷹揚な表情をしている



文礼の腹診図

胸肋各広く、鷹揚な表情、腹部は張り出して弾性がある。
瘀血の圧痛点？あり。

腹部脂肪や腫大した肝臓により横隔膜が押し上げられ、胸肋角が開く



柴胡、芍薬、枳実、大黄で緩めて瀉す

横隔膜が固まって呼吸が浅くなり、気機の阻滯が起きる。緩めて下す瀉法の出番

12月15日(木)18:00~20:30 (第164回)

第10回 四逆湯他

四逆湯、人參湯、桂枝人參湯、人參去朮加桂湯、理中加附子湯、乾姜附子湯、六君子湯



「人參湯・桂枝人參湯・附子理中湯」

しずく堂薬局 中尾真美代

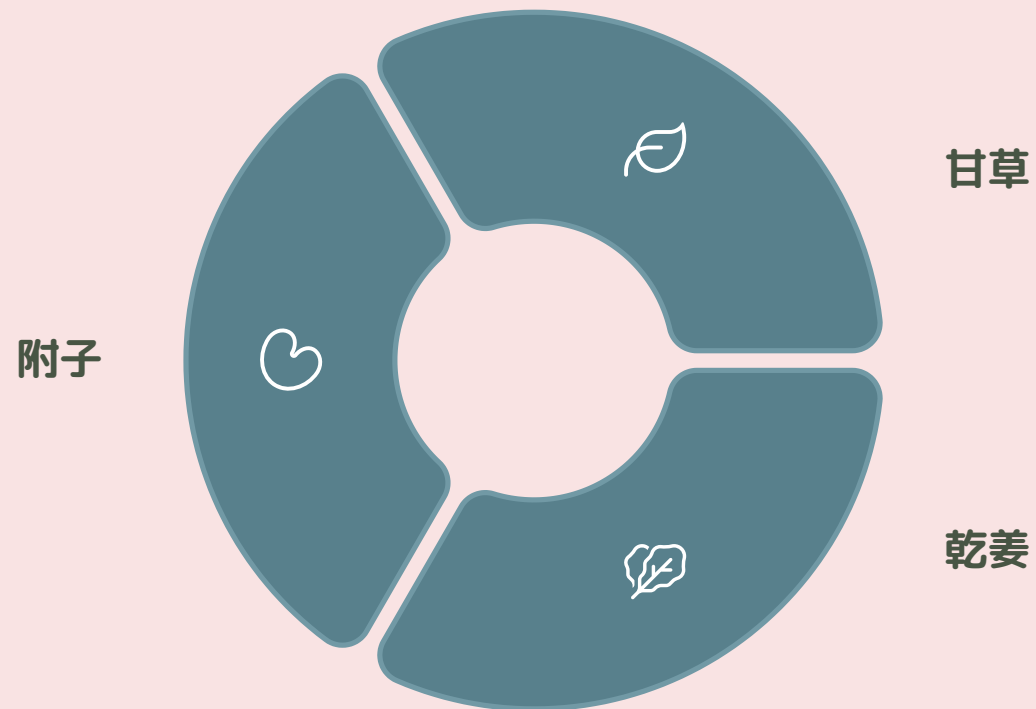


「人參湯と四逆湯」

株式会社枳本天海堂 西谷真理

陰病の代表処方

四逆湯





乾姜は肺、脾、腎を鼓舞する

乾姜は
冷えを温めて
弱った胃気を鼓舞し

さらに
肺の冷えを解き
腎陽までも鼓舞する
圧倒的なパンチ力がある

○四逆湯の腹証

腹満して軟

これを按ずるに力なく

腹体、或いは心下に応うるの毒なく

また肌膚は潤いなく甲錯して俗に言う鮫肌の如く

手足逆冷、或いは厥冷し、且つ腹底冷え

あるいは臍下関元の辺不仁にして

腹底に力なし

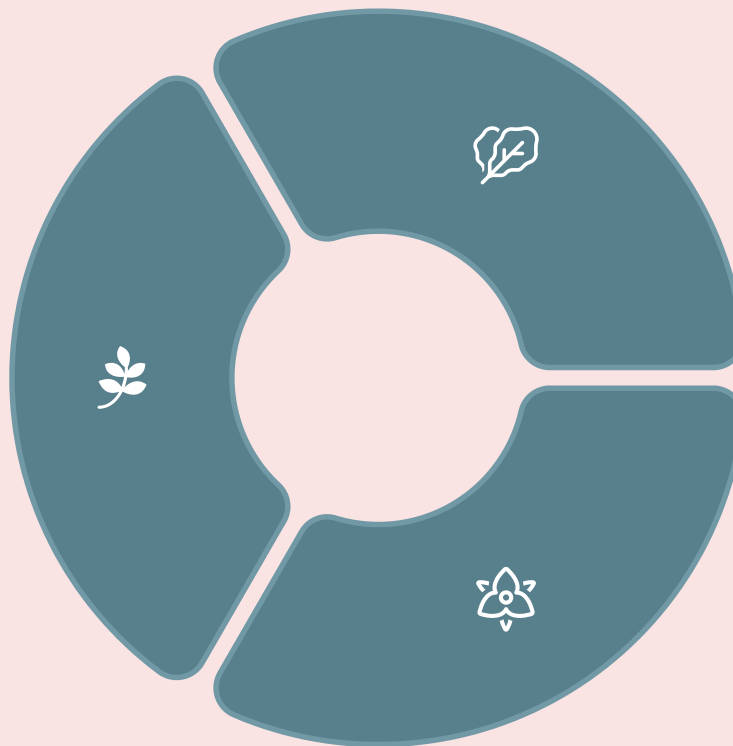
また曰く、腹底攣急あるいは下利清穀

或いは小便不利するもの



附子の三大作用

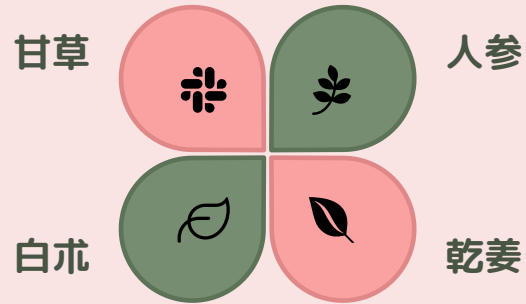
裏寒を去る



痛みをとる

強心利水する

人参湯



冷えによる心下痞硬

人参湯の2つの腹証

裏寒があると胸からみぞおちにかけて
ベニア板のように痞えて硬くなる場合がある
一方
軟らかく無力で振水音のある場合もある



2023年1月26日(木)18:00~20:30 (第165回)

第11回 真武湯他

桂枝加附子湯、附子湯、烏頭桂枝湯、甘草附子湯、桂枝附子湯、同去桂加朮湯、真武湯、附子粳米湯、八味丸



「甘草附子湯：腰下肢の電撃痛に甘草附子湯が著効した1例（論文より）」
「桂枝加朮附湯（自経例より）」

ふくおかクリニック 福岡正平



「八味丸・真武湯の症例」

阪神医療生活協同組合第三診療所 澤井一智

真武湯の別名 玄武湯



○真武湯

陰病の葛根湯：陰病の目標は腹底の冷え

腹軟満にして

これを按せば悸ありて拘攣し

或いは心下もまた悸して

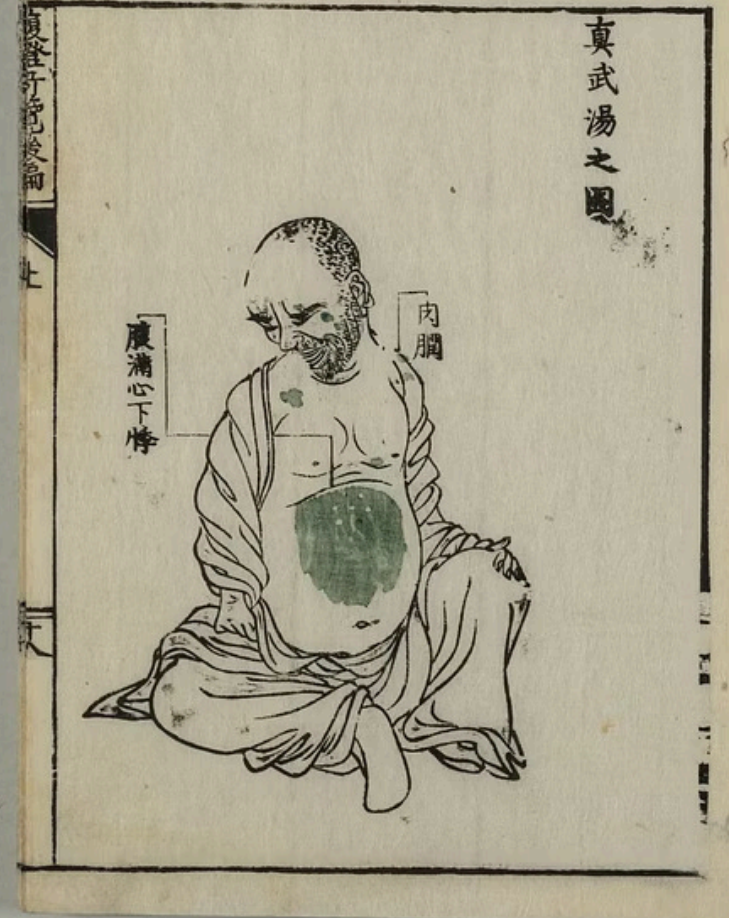
時々目弦し、身瞤動し、

或いは時々悪寒し、

小便不利、或いは嘔する者

亦言う、四肢疼重、あるいは沈重疼痛する者まもあり

亦言う、この証にして、**腹底に寒冷をおぼゆる者大いにあり**



23年3月23日(木)18:00～20:30 (第167回)

第12回 梔子鼓湯他

梔子鼓湯、梔子甘草鼓湯、枳実梔子鼓湯、梔子大黄鼓湯、梔子厚朴湯、梔子乾姜湯、
梔子蘗皮湯、茵陳蒿湯、大陷胸湯、大陷胸丸、小陷胸湯、（柴陷湯）、十棗湯、
甘遂半夏湯、大黄甘遂湯、鶴家甘遂桃花湯



「梔子鼓湯から考えた三焦図」

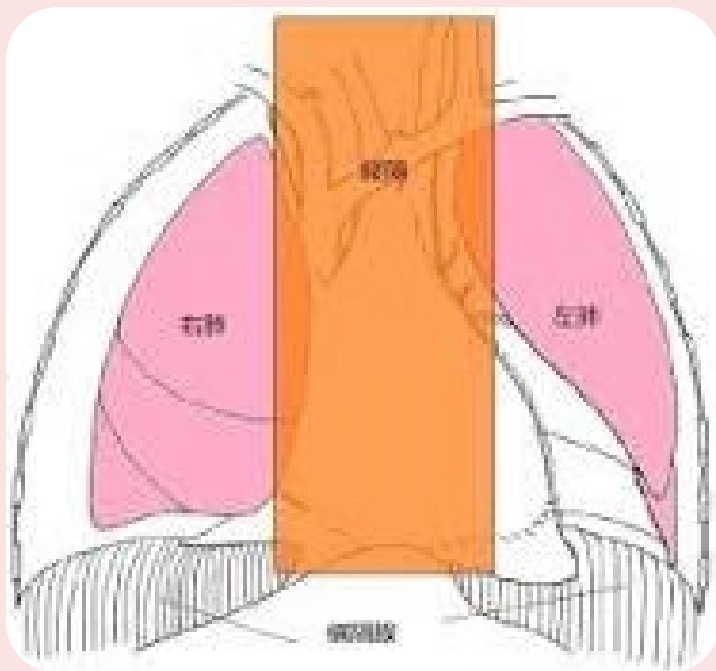
泰山堂岡崎医院 岡崎弘泰



「膈について考えてみる 通膈湯の症例を通して」

タケモトクリニック 竹本喜典

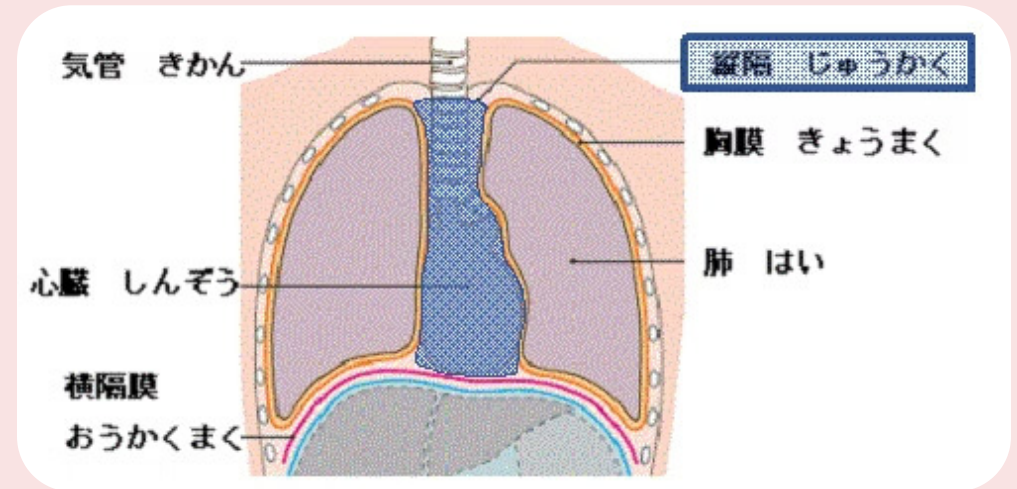
胸にこもった熱をとる



縦隔は身体のパイプスペース
みえないけれど、
流れをつなぐ大切な場所



梔子豉湯は胸（縦隔）にこもった熱を清解する



○梔子豉湯

図の如く心下空
之れを按ずれば軟
心中窒がり結痛す
時々煩熱し手足温
もしくは甚だしきは
心中懊濃す



毒を以て毒を制す

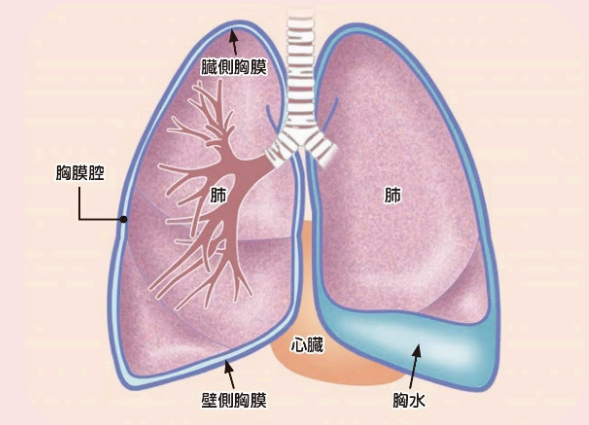
大陷胸湯毒薬で水熱結胸を瀉す



トウダイグサ科
甘遂、大戟、巴豆



三瀉の処方



23年4月27日(木)18:00～20:30 (第168回)

第13回 瀉心湯他

大黄附子湯、大黄黄連瀉心湯、附子瀉心湯、三黄瀉心湯、黄連解毒湯、半夏瀉心湯、
生姜瀉心湯、甘草瀉心湯、黄芩湯、黄芩加半夏生姜湯、六物黄芩湯、乾姜黄連黄芩人参湯



ダブルヘッダーありがとう 半夏瀉心湯の守備範囲

タケモトクリニック 竹本喜典



「膈痞余論」 ～「膈と痞のつながりから」～

泰山堂岡崎医院 岡崎弘泰

○半夏瀉心湯

図の如く、心下痞鞭、
或いは軟実にして雷鳴するもの此の方の証なり
余案ずるに、久しく下痢止まず腹痛する者この証多し、
或いは大便閉し、時々腹痛するものこの証まあり、
余が門、しばしば用いて効ある毎に之れを信ず
或いは心腹疼痛のもの、この証多し
又案ずるに、下痢して後
心下痞硬する者、この証といえども、雷鳴せざるものあり
鑑別
半夏瀉心湯はその雷鳴心下にある
小柴胡湯は胸脇苦満あり
附子粳米湯はその雷鳴腹中にある



裏寒の人参湯に対して寒熱錯雜の心下痞硬

飲酒後の胃腸を考える



アルコールが、胃粘膜を荒らし、身体は熱をもつ
身体はだるく、むかつきがあり、食欲なく、便はゆるい

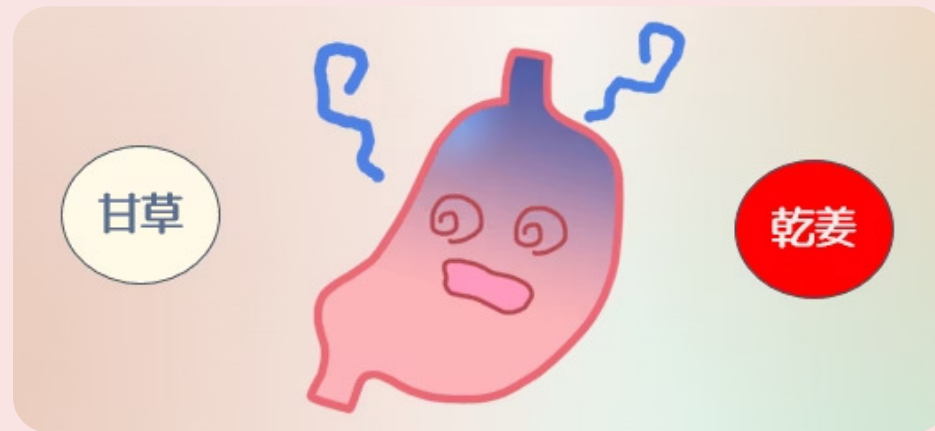


熱痞

熱を持ち炎症を起こし痞えている

胃の熱を冷ます

素因に脾虚がある人
飲み過ぎ食べ過ぎで脾胃が弱る
寒痞 冷やされて痞える
胃は冷やされて機能失調に陥る



食欲なく、ぐったりして、何も食べられなくなる。軟便下痢をする。

甘草乾姜で脾胃を温め、脾胃の気を鼓舞する

半夏瀉心湯



23年5月25日(木)18:00~20:30 (第169回)

第14回 大承気湯他

大承気湯、厚朴大黄湯、厚朴三物湯、厚朴七物湯、鶴丸、調胃承気湯、
大黄甘草湯、大黄硝石湯、橘皮大黄朴硝湯



「大黄剤について」

洛和会音羽リハビリテーション病院 山崎武俊



「大黄を含む処方（大黄甘草湯、調胃承気湯、厚朴七物湯の小児例）」

おおたこども・アレルギークリニック 大田和美



●大承気湯

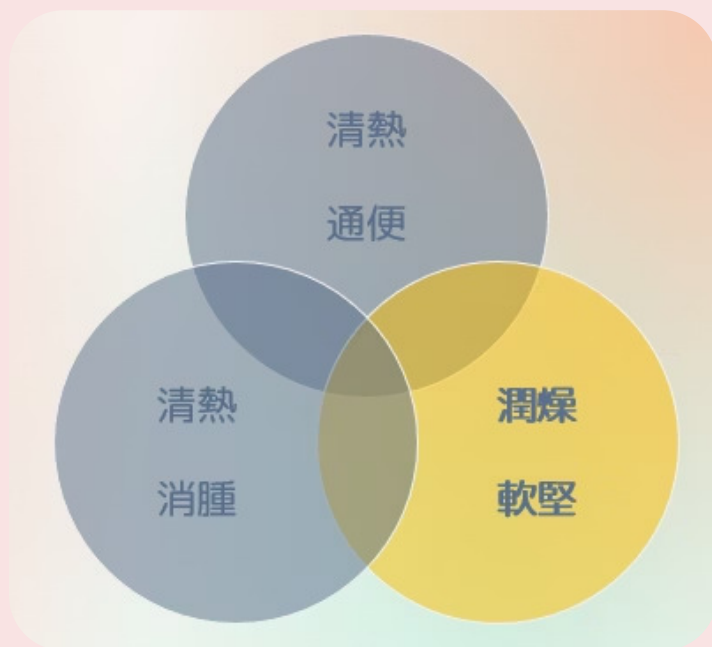
図のごとく、心下硬く実満して
もしくは心下高く起こりて
塊（つちくれ）に似たり
腹一面に張して之れを按すに腹にこたえ
実して痛み、心下張り痛み
もしくは、腹痛之れを按すにいよいよ痛み
臍上の動悸、水分の辺にありて
これを按すにまた実して力あり



大黃の多彩な作用

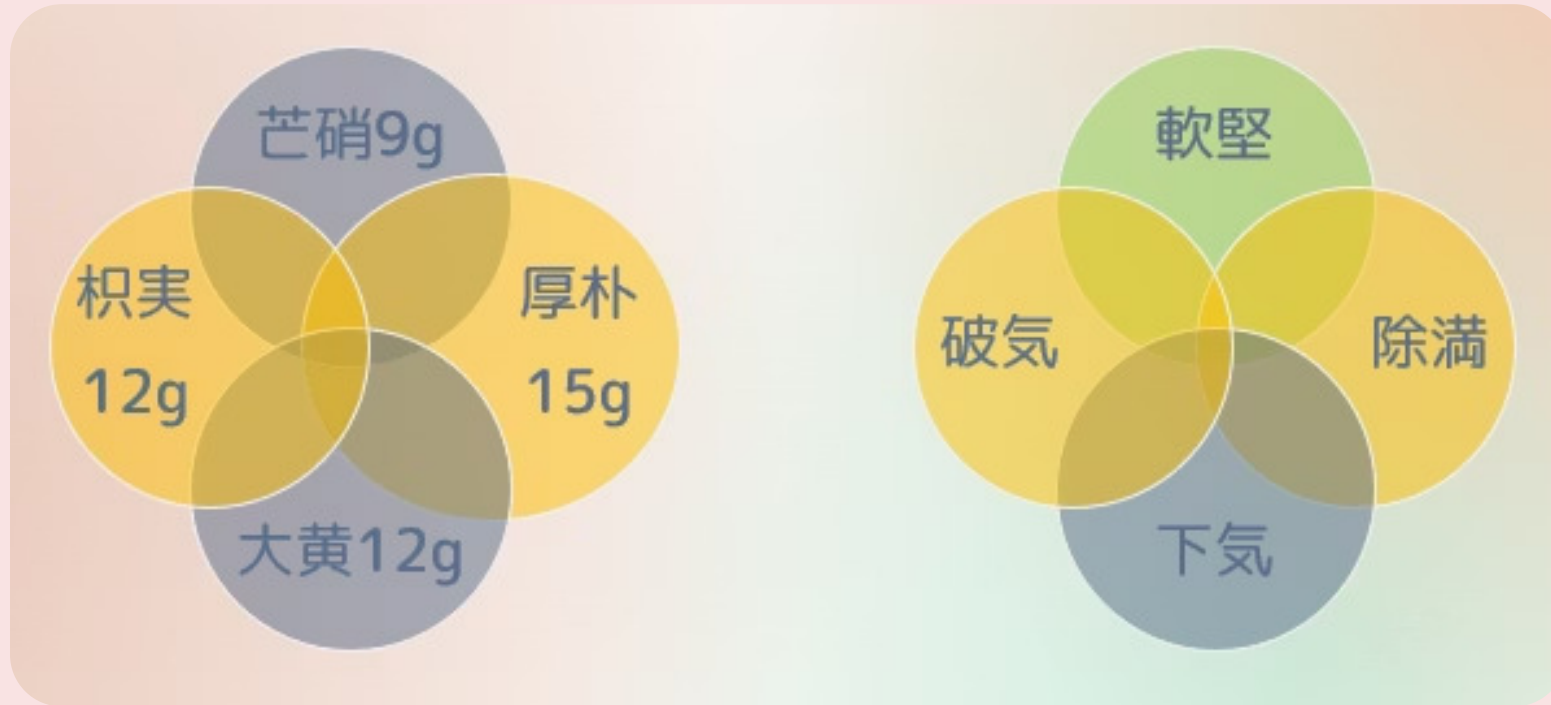


芒硝の基原と薬能



- 天然の硫酸ナトリウム
- あるいは硫酸マグネシウム
- 性味：鹹、苦、寒
- 帰経：胃、大腸、三焦

四味一体の大承気湯の完成



大承気湯：大黄四兩・厚朴半斤(五兩)・枳実五枚・芒硝三合

23年6月22日(木)18:00~20:30 (第170回)

第15回 桃核承気湯他

人参芍薬桃花湯、桃軍園（桃核承気湯）、桃核承気湯、大黄牡丹皮湯
癥瘕圓（桂枝茯苓丸加当帰、大黄）、抵当湯、抵当丸、下瘀血湯



生薬の「自然界の姿」と関連方剤

しずく堂薬局 中尾真美代

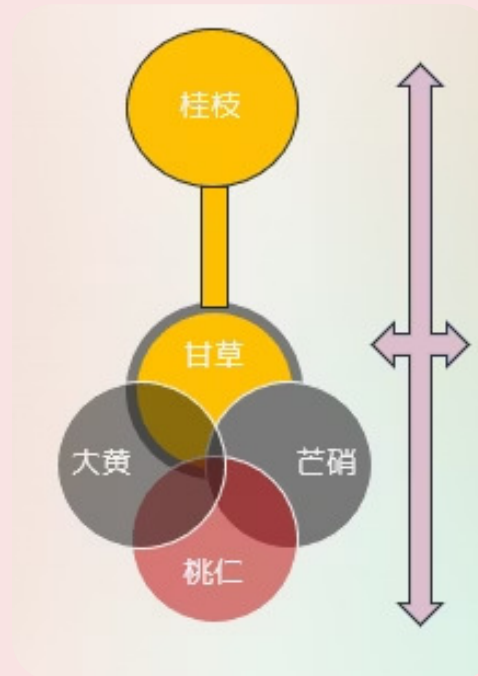


駆瘀血薬の比較（腹証奇覧を参考にした）

阪神漢方研究所 付属クリニック福田裕子

桃核承気湯の構成

甘草で胃気を守りながら、大
黄、芒硝、桃仁で瘀血を下し
血を浄化する



桂枝甘草で気の上衝を治し温性の桂
枝で浄化された血を全身に巡らせ、
引火帰原して腎に納める

○桃核承気湯

図の如く

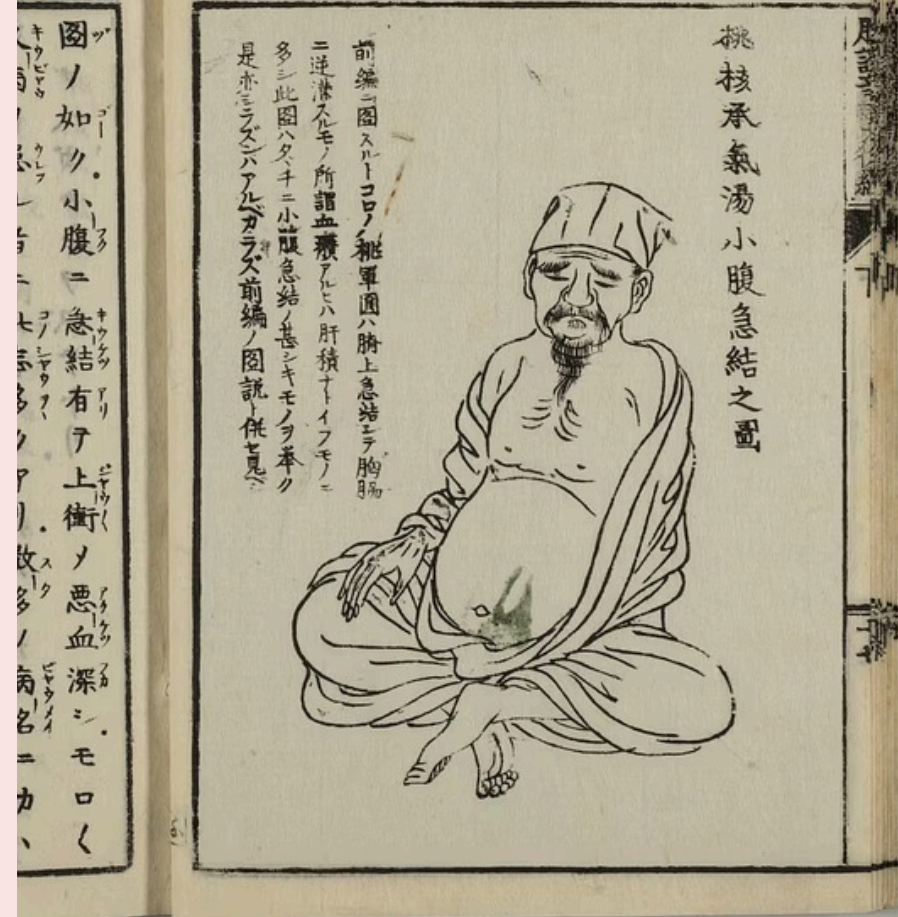
小腹に急結ありて上衝し悪血深し

諸々の久病を患うる者にこの証多くあり

数多の病名に拘わらず、

只、この腹証を眼として此の方を本剤と極め

小腹急結の病を攻るなり



●桃核承気湯

図の如く、

左の臍傍、天枢の辺より上下

二、三の間、三指探り按するに

結するものあるを得、

これを邪按するに、痛み甚だしく上へ引きつる

ことを覚ゆるものを桃核承気湯の証とす。

或いは臍上、或いは臍下も亦結ばるるものありて

之れを按して痛むといえども、

この左の臍傍に得るものをもって正候として

臍上、臍下に及ぶものはその結の甚だしきものと知るべし。

、その結、即ち瘀血にして、胸腹に逆上す

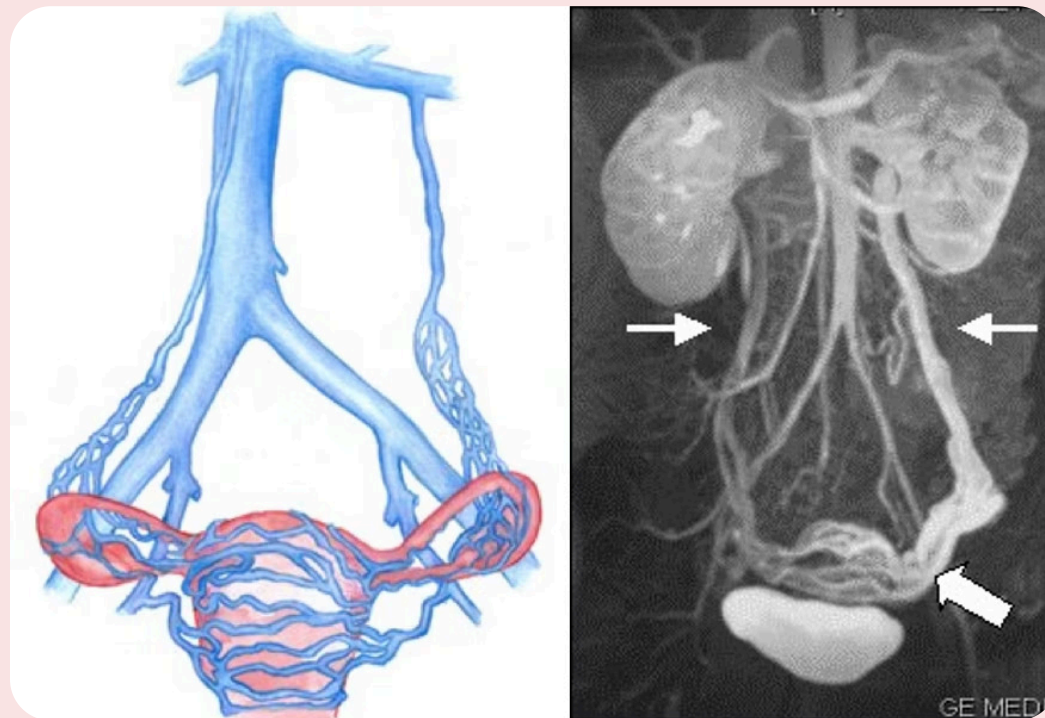
甚だしきものは、脇下に迫り、

胸腹より背に徹して、その証発作あり

眉をつり上げたこの図は叔虎の勝ち！



骨盤内うっ血症候群



左卵巣静脈が左腎静脈に濯ぐので瘀血は左に生じやすい

第16回 当帰芍薬散他

當歸芍薬散、芍婦膠艾湯、猪苓湯、芍婦膠艾湯及び猪苓湯
調気飲、黄連阿膠湯、甘麦大棗湯、千金甘草湯



「甘麦大棗湯、黄連阿膠湯」

キリン薬局京都店 橋本佳子先生



「芍婦膠艾湯、当帰芍薬散、甘麦大棗湯 について」

ERIクリニック 戸城えり子先生

文礼の当帰芍薬散の腹証

やせてしだれ柳のような女性を思わせる。
皮膚はきめ細かく
色白でしっとりとしている。
臍下に抵抗があるが、
瘀血のような硬結ではない。
当帰芍薬散は本来は
女性の腹痛の処方であり、
芍薬の量が比較的多い。



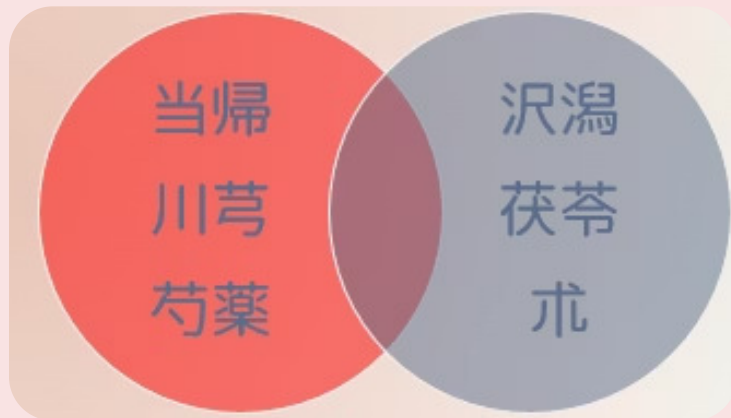
当帰芍薬散証の肌

初潮がはじまる10代から20代の女性に多い

しっとりとしっとり色白

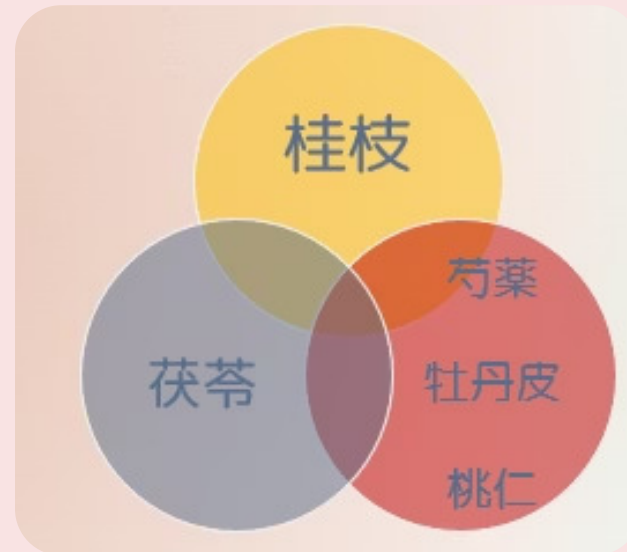
きめの細かい肌

血虚のため月経後不調を訴えることが多い

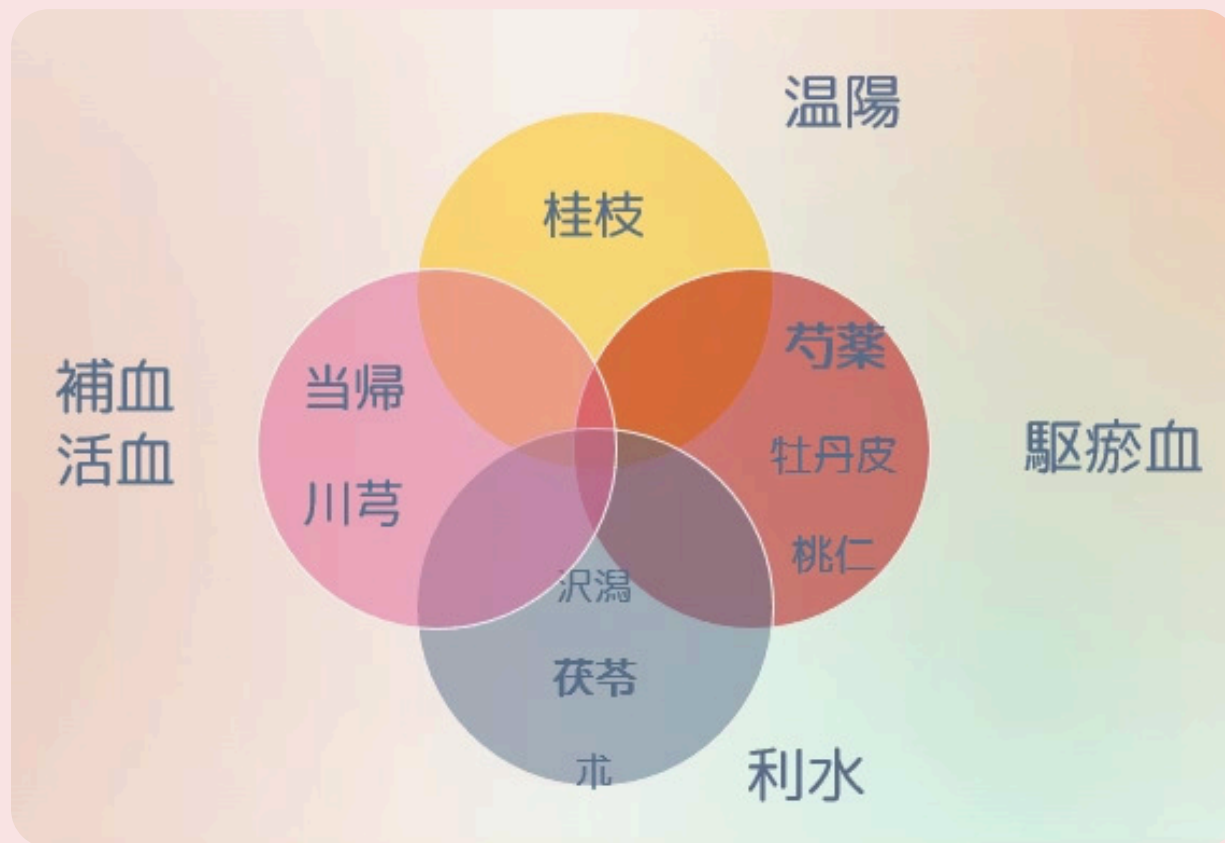


桂枝茯苓丸

- 30代以降
- ややくすんだ肌
- 荒れてザラザラ
- のぼせ
- 月経前不調



当帰芍薬散合桂枝茯苓丸



第17回 五苓散他

五苓散、茵陳五苓散、（木防已湯）、朮防已去石膏加茯苓芒硝湯、瓜呂薤白白酒湯、茯苓杏仁甘草湯



『五苓散と茵陳五苓散』

音羽病院脳神経内科 松本雄志



『心不全に対する漢方診療』～五苓散、木防已湯、当帰芍薬散を中心に～

京都大学医学研究科 循環器内科学 金田和久

胸痺に瓜呂薤白白酒湯胸痺は痰結 あるいは痰瘀互結なり

- 粥状の動脈硬化は東洋医学の痰といえる
- 栝楼仁が粥状の痰をほんとうに溶かしてくれるのかはわからない。
- 肥満して体中に痰が溜まっている人は、括蕒実、栝楼仁を大量に使えばよいのか。
- 痰濁が心包経（リンパ系）につまると背部痛が強くなる。

臨床の目

文礼は気管支喘息と、心臓喘息の区別はついていないが起座呼吸をして呼吸の苦しい状態が表現されている

両脇や上胸部の色塗りも、息の苦しさを表現しているようにみえる。

またリンパ系との関連も示唆される。

胸痺の病は、胸背部の痛みが特徴であり現代における狭心症の発作と考えられるが

文礼は、狭心症でなく長患いの心臓喘息にこの処方を応用していたことがうかがえる。



經方理論の括萋実（栝楼仁）

1. 清熱化痰
 2. 寛胸降濁
 3. 消腫散結
 4. 潤腸通便
- 作用する場所は、肺、胸、膈、心下、心包、小腸を主として全身に作用する。
 - 胸中の熱痰を飲にまで溶かし、その飲を半夏で湿にまで溶かし、生体の側が処理しやすくする

●五苓散の腹証

図の如く、心下痞あり。

その痞を按せば力なく散り、腹中、水分に動気あり。

之を按して痛み、小便不利、微熱、消渴す。

或は、渴して水を飲まんと欲し、水入れば則ち吐くもの、五苓散の證なり。

或は、下痢、渴して水を飲まんと欲し、小便不利のもの、亦あり。

或は、腹微満し、之れを按すに、濡鬱冒して、顔、微腫するものあり。

又、小児疳證、顔面青白、微腫、耳輪すきとうるがごとく、腹満して之を按すに濡なるもの、何れも渴して、小便不利を以って證応とすべし。



五苓散は主にアクアポリンの抑制を通して 全身の水分代謝を調節する

五苓散の目標
水分代謝障害、水分の偏在
キーワードは身体の重だるさ

- 胃内停水
- 水逆の嘔吐
- 感染性下痢（特にウイルス性）
- 二日酔い、乗り物酔い
- めまい（特に回転性、内耳の水分代謝障害）
- 浮腫（四肢、顔面、皮下、脳、心不全による浮腫）
- 小便の出にくさ
- 雨の前の頭痛

五苓散臨床応用の歴史的変遷

感染性胃腸炎、下痢、ネフローゼ

天気頭痛、偏頭痛

慢性硬膜下血腫、脳浮腫

慢性心不全

第18回 苓桂朮甘湯他

苓桂朮甘湯、茯苓甘草湯、茯苓戎塩湯、苓姜朮甘湯、苓桂甘棗湯、磁石丸



「各方剤の方意解説」

洛和会音羽リハビリテーション病院 山崎武俊



「苓桂朮甘湯（今中政支先生の資料より） 磁石丸」

阪神漢方研究所付属クリニック 福田裕子



苓桂朮甘湯は脾を補うと同時に
心の陽気を助け
縦方向の気血水の流れを調節する

桂枝湯は芍薬が入り
縦横全方向苓桂朮甘湯は
もっぱら縦方向に作用する

●苓桂朮甘湯（叔虎）

図の如く

心下に痰飲水気ありて逆満し

之れを按ずに濡にして

久しく之れを捫すれば水声をなす

虚里の動強く、

胸ダクダクとして気上衝し

起きれば頭眩し、

俗に言う「たちくらみ」するもの

もしくは、目赤くくらみ、

あるいは身ふるい常に舟に乗るが如く

或いは、胸さき支えて息せわしく、呼吸の短きものを

苓桂朮甘湯の証とす



苓桂朮甘湯圖

● 苓桂甘棗湯の腹証

図の如く

臍下に於いて

ダクダク、ビクビクと動くものあり

やがてムクムクとして

心下にさしむものは、所謂

奔豚の気なり

この証、水気を挟みて上衝す。

故に臍下悸して**奔豚の気**を発するなり



苓姜朮甘湯

図の如く、腰以下病ありて
冷ゆること水中に座するが如く
重くして痛み、甚だしきものは
腰痛して反張（そりかえる）するに至る
小便自利するものを
苓姜朮甘湯の証とす
甘草乾姜で肺脾腎を温めて
白朮、茯苓で利水する。

甘草 乾姜

温裏

白朮 茯苓

補脾利水



2023年11月16日(木)18:00~20:30 (第175回)

第19回 黄土湯他

黄土湯、薏苡附子敗醬散、風引湯、土瓜根散、小品奔豚湯、広済奔豚湯、防風茯苓湯、小品牡蛎奔豚湯



「黄土湯、薏苡附子敗醬散、風引湯」

株式会社枳本天海堂 西谷真理

黄土

別名：黄土・灶（竈）心土・灶心黄土・伏竜肝

長年焚木で焼かれた黄土製かまどの中央部の焼け土

【性味】辛，微温

【帰経】脾・胃

【臨床使用の要点】

黄土は辛・微温で，温中して摂血止血するので，虚寒の気不摂血による便血・崩漏・吐血・衄血などに適し，とくに胃腸出血に効果がある．また，辛温で温中散寒・和胃止嘔に働くため，胃寒気逆の嘔吐・反胃に有効であり，妊娠嘔吐にも良効を示す．温中渋腸止瀉の効能もあり，脾虚久瀉不止に用いる．



「中医臨床のための中薬学」神戸中医学研究会

赤石脂



基原 酸化第二鉄を多量に含む

雲母源の粘土塊

性味：甘、酸、渋、温

帰経：腎、大腸

薬能：**渋腸止瀉、斂血止血、固精止帶、生肌収口**

潰瘍性大腸炎の出血下痢に黄土湯変方合桃花湯

鍋谷欣市

黄土湯

黄土、炙甘草、地黄、蒼朮、附子、阿膠、黄芩

黄土湯変方

（地黄、附子、黄芩を抜いて艾葉、当歸を加えている）

黄土3-6、阿膠3、艾葉3、当歸3、加芍薬2、甘草2、Or 人参3、白朮3、茯苓3

桃花湯

赤石脂6、乾姜1.5-3、粳米8

奔豚湯（金匱要略）

「奔豚の病は小腹より起こり、上って咽喉を衝き、発作するときは死せんと欲し、また還って止まる。皆驚恐よりこれを得る。」

奔豚湯ラインアップ

○小品奔豚湯

桂心、炙甘草、李根皮、竹節人參、葛根、黄芩、栝楼仁、川芎

○広済奔豚湯

桂心、炙甘草、李根皮、竹節人參、半夏、乾姜、**茯苓**、炮附子

○防風茯苓湯

桂枝、甘草、竹節人參、半夏、乾姜、**茯苓**、防風

○小品牡蛎奔豚湯

桂心、炙甘草、李根皮、牡蠣

肘後備久奔豚湯

桂枝、甘草、人參、半夏、吳茱萸、生姜

定悸飲

桂枝、甘草、李根皮、牡蠣、吳茱萸、**茯苓**、白朮

奔豚湯の基本的パーツ

李根皮

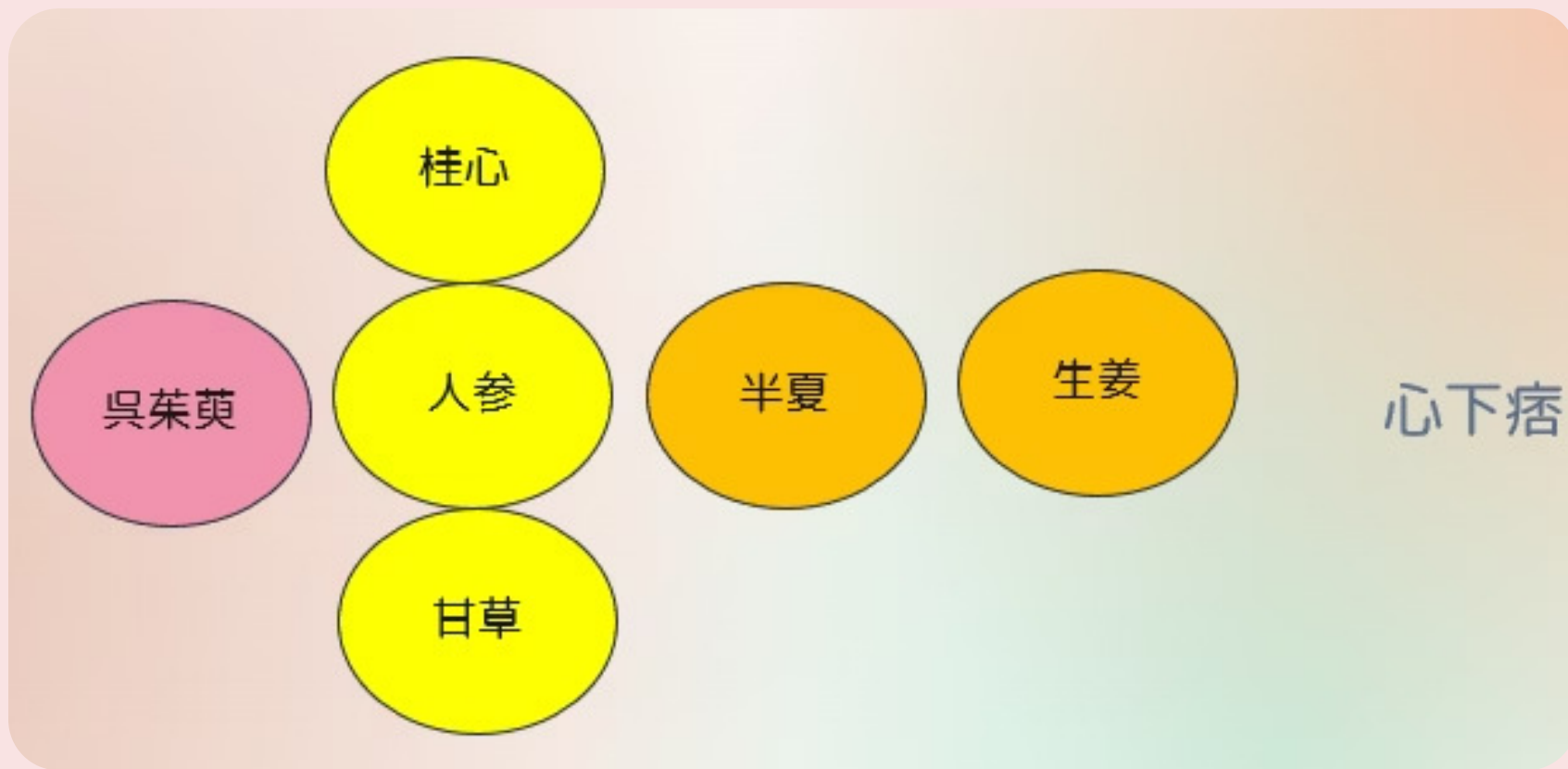
桂枝

人参

急な発作を治す目的と発作予防の目的
心気を補う、脾を補う

甘草

肘后奔豚湯



奔豚の治療においても心下（腹）は重要

副交感神経緊張の揺り戻しにより奔豚気が誘発される
動悸を治す処方なのに鎮嘔の乾姜人参半夏と呉茱萸が使われる意味がここにある

胃の痞えや腹鳴、腹満といった副交感神経緊張の症状が、交感神経の揺り戻しを引き起こし、動悸や不整脈を誘発することがある。胃のもたれや嘔気を治す乾姜人参半夏の組み合わせや、呉茱萸の気の上衝を抑えて、嘔気を治す作用が、動悸の誘発を予防すると考えられる。

これが、各種奔豚湯にしばしばみられる乾姜人参半夏の組み合わせや呉茱萸の加味の意味なのではないだろうか。

まとめ

- 日本漢方の方証相対を処方に対する腹診所見としてまとめたのが、腹証奇覧、奇覧翼である。
- 証というのは、具体的な病人さんの所見を普遍化してあらわしたもので、万人に分かるように腹診所見を普遍化しようと試みたのが叔虎の腹診図である。
- 一方、普遍化した概念を、それぞれに異なる具体的な病人さんにあわせて匙加減をおこなっていくのが、本来の臨床のすがたである。文礼の腹診図は、時に普遍化された腹証と大いに異なるが、それは文礼が今、目の前にいる病人さんのありのままの姿を描いたからにほかならない。そこに文礼のすごみがあり、処方も腹診も「病人さんに還る」ためにあることを教えられた。
- また腹証奇覧も奇覧翼も、ただ腹を描いているのではなく、病人さんの全体像を描いている点が画期的であり、腹診が単に切診にとどまらず、望診の一部であることも自覚する必要がある。

みんなの力で寅卯の2年をかけて
読み終えることができました

研究会の皆様、ツムラ様
ありがとうございました
そして一番の感謝を

故 土方康世先生
故 今中政支先生

に捧げます

辰年

症候を問う

2024. 1. 25 第一回 動悸を問う

症例提示：竹本喜典先生、福岡正平先生